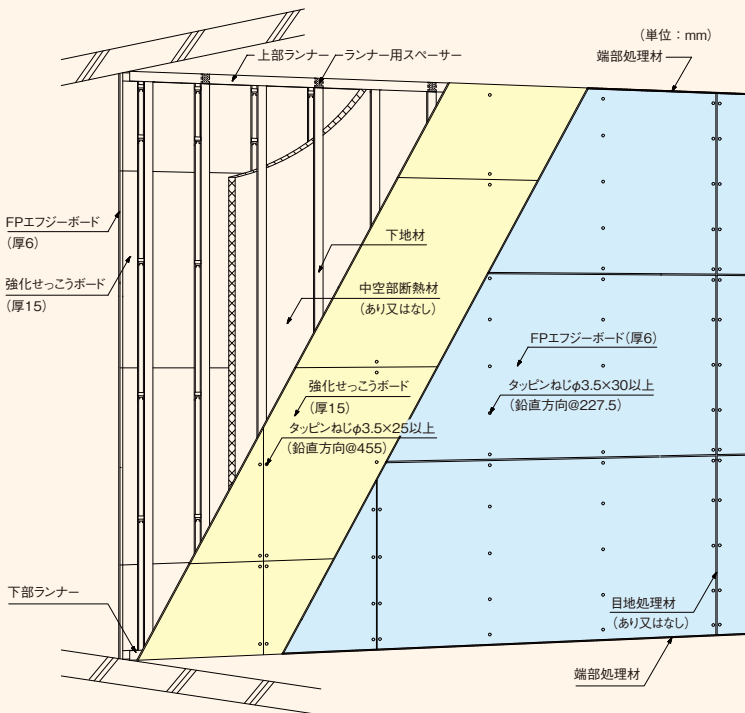


FPエフジーボード・G耐火60は、高遮音耐火間仕切壁です。

遮音性に優れたFPエフジーボードと強化せっこうボードの組み合わせにより高遮音耐火間仕切壁が実現しました。上張り材として使用するFPエフジーボードは、耐火性・寸法安定性・加工性に優れています。静寂なスペースの確保、また外に音を伝搬させない空間の創造に寄与します。

■遮音耐火間仕切壁 (千鳥間柱仕様の場合)



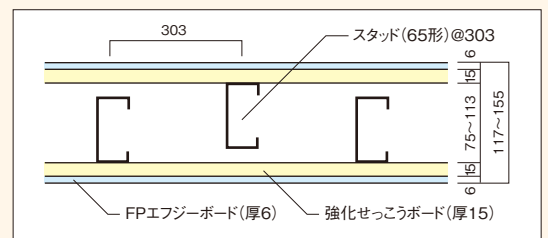
※耐火・遮音構造認定の場合は、千鳥構造(千鳥間柱または数目板仕様)になります。
 ※耐火構造認定のみの場合は、千鳥構造のほか共通間柱・並列間柱構造も可能です。

遮音構造認定：SOI-0158

耐火構造認定：FP060NP-0346(断熱材なし)

FP060NP-0347(断熱材あり)

●水平断面図 (単位: mm)



★下地材

□-65~100×45×厚0.5(-0.07)~0.8(+0.09)又は
 □-65~100×45×厚0.5(-0.07)~0.8(+0.09)
 (@303、千鳥間柱仕様又は数目板仕様)

★断熱材ありの場合

グラスウール24K品厚25mm以上又はロックウール25K品厚25mm以上

★留め付け材

		上張り材	下張り材
留め付け材(タッピンねじ)		φ3.5×30以上	φ3.5×25以上
留め付け間隔	鉛直方向	227.5以下	455以下
	水平方向	606以下	

★目地: 突き付け、面取り突き付け(3C以下)、面取り突き付けパテ等

★四周端部処理: シーリング、パテ等による充填処理
 (遮音構造の場合、四周端部処理必須)

■特長

●優れた遮音性能と耐火性を併せもつ間仕切壁です。

FPエフジーボードと強化せっこうボードの組み合わせで実現した高性能遮音耐火間仕切壁です。
 (千鳥間柱または、数目板)

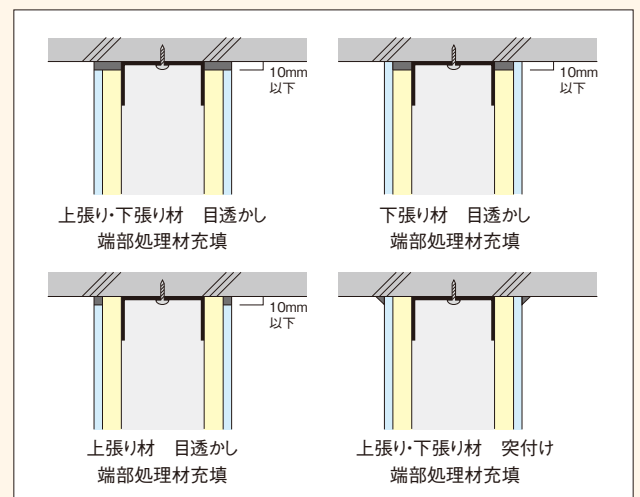
●高い表面硬度があります。

FPエフジーボードは、表面硬度が高く上張り材として最適です。

●寸法安定性に優れています。

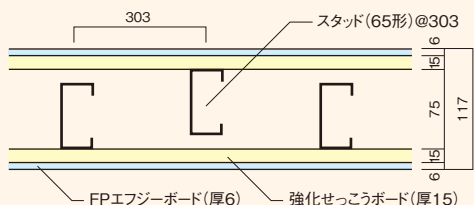
FPエフジーボードは、吸放湿による伸縮が非常に小さく、寸法安定性に優れているため、各種仕上げの耐火下地材としても適しています。

■耐火・遮音構造における四周(端部)処理

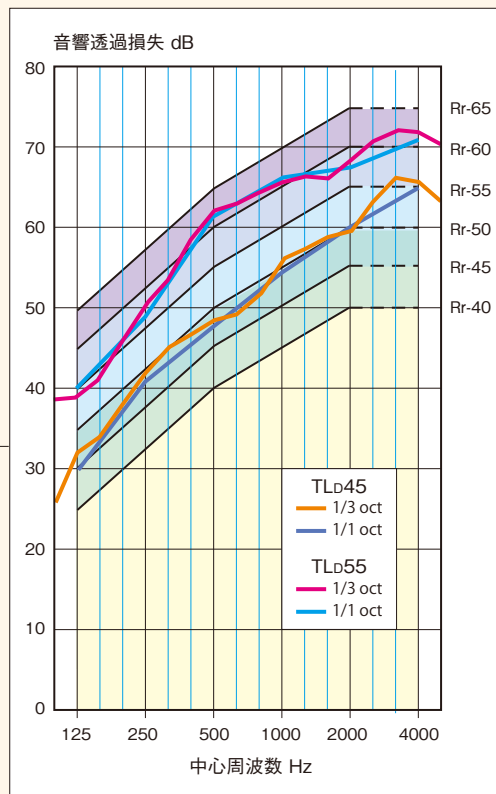


■FPエフジーボード・G耐火60の遮音性能 (試験機関：一般財団法人建材試験センター)

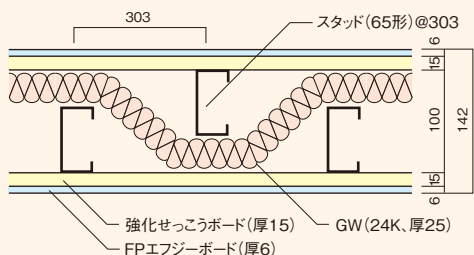
■TLd45 遮音タイプ (断熱材なし)



中心周波数 Hz	音響透過損失 dB		
	1/3oct	1/1oct	
100	26.5	30	
125	32.3		
160	32.9		
200	38.2		
250	42.2		
315	45.3	41	
400	46.9		
500	48.8		
630	49.2		
800	52.7		
1000	56.1	55	
1250	56.9		
1600	58.7		
2000	59.8		
2500	63.5		
3150	66.0	65	
4000	65.7		
5000	63.6		
TLd値			45



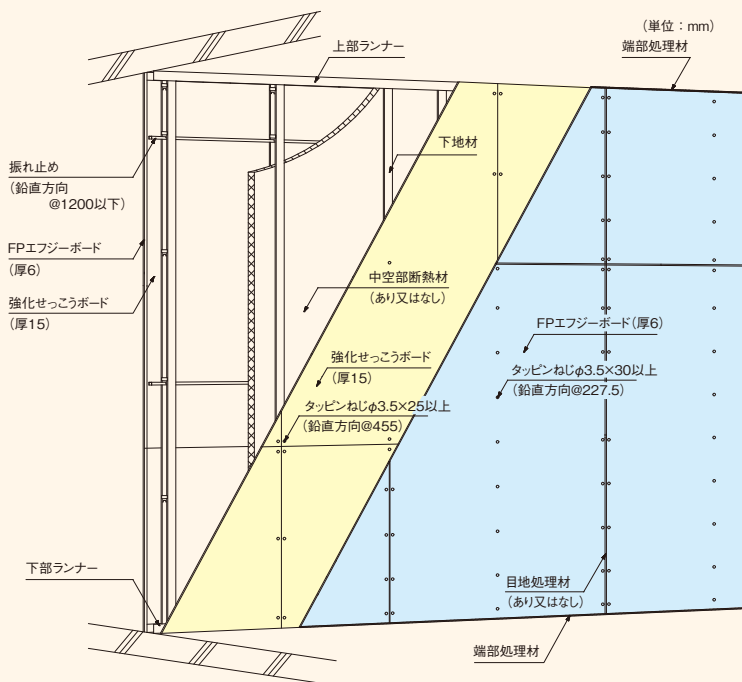
■TLd55 高遮音タイプ (断熱材あり)



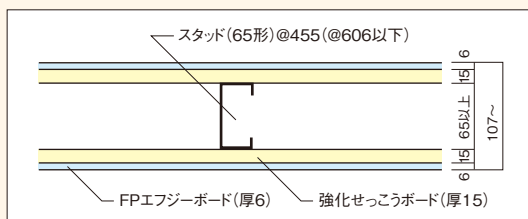
中心周波数 Hz	音響透過損失 dB		
	1/3oct	1/1oct	
100	38.7	40	
125	39.0		
160	41.1		
200	46.6		
250	50.3		
315	53.3	49	
400	58.6		
500	61.7		
630	62.2		
800	65.7		
1000	65.5	66	
1250	66.1		
1600	65.3		
2000	68.1		
2500	70.3		
3150	72.1	71	
4000	72.0		
5000	70.1		
TLd値			55

注) 記載の遮音性能は、壁本体の部材性能を示したもので、実際の建築に使用した場合の本間仕切による空間音圧レベル差を保証するものではありません。

■耐火間仕切壁 (共通間柱構造の場合)



●水平断面図 (単位：mm)



★下地材

- 65×45×厚0.5(-0.07)以上又は
- 65×45×厚0.5(-0.07)以上
- @455(@606以下) 共通間柱構造又は並列間柱構造

★断熱材ありの場合

- グラスウール16K品厚25mm以上又はロックウール25K品厚25mm以上

★留め付け材

	上張り材	下張り材
留め付け材(タッピンねじ)	φ3.5×30以上	φ3.5×25以上
留め付け間隔	鉛直方向	227.5以下
	水平方向	606以下

★目地: 突き付け、面取り突き付け(3C以下)、面取り突き付けパテ等

★上下部端部処理: シーリング、パテ等による充填処理

※上図は、耐火構造認定のみの仕様です。

※耐火構造認定のみの場合、上下端部には、必ず処理材を充填してください。(必須)

また、柱、壁等の他材取り合い部に隙間が生じた場合は、端部処理材を充填してください。